尾添川流域自然環境保全対策調査報告書

石　　川　　県

昭和57年3月

「尾添川流域自然環境保全対策調査報告書」の刊行にあたって

白山地域は自然がよく残されているところとして、全国的にも知られています。なかでも、尾添川の上流域はほとんどが手のついていない原生林におおわれており、最も自然度の高いところといえます。

この尾添川の上流域、蛇谷にそって白山林道が建設され、一般供用になったのが昭和52年8月のことです。森林開発、地域振興、観光利用等を目的としたものですが、自然利用とはいえ、この林道が決して自然破壊をもたらすものであってはなりません。後世の人々に、優れた自然を遺産として残すのは私たちの責務であり、工事当初からその施行方法については、自然に及ぼす影響を最少限にくいとめるよう、工事当局者に働きかけてまいりました。

県では、今後の白山林道周辺地域の自然環境のより良き保全と利用を計るため、一般供用が開始された昭和52年度から昭和56年度にかけ、大気、地質、植生、動物の面から、白山林道の周辺自然に及ぼす影響を調査してまいりました。この報告書はその調査成果をとりまとめたものです。自然の変化は遅々としたものが多く、5年間の調査では十分に把握できないものもあるかと思いますが、幸い、現在のところ大きな影響がでておらず、安心しているしだいです。今後共、調査成果をふまえて、尾添川流域の自然環境の保全に務めてゆく所存であります。

最後になりましたが、本調査に際しては奈良女子大学の菅沼孝之氏、金沢大学の大串龍一氏、里見信生氏、農業短期大学の富樫一次氏、瀬戸内海国立公園管理事務所の星野宏一氏の各先生方にご協力をいただきました。ご多忙中にもかかわらず、本調査に時間をさいていただき、深く感謝するしだいです。

昭和57年3月

石川県知事　中　西　陽　一

目　　次

「尾添川流域自然環境保全対策調査報告書」の刊行にあたって
はじめに
第1章　地質・地形 …… 1
第1節　地　　質 …… 1
第2節　地　　形 …… 3
第2章　大　　気 …… 5
第1節　調査概要 …… 5
第2節　自動測定機による測定結果 …… 6
第3節　二酸化鉛法による硫黄酸化物相対濃度の測定（月間値）結果 …… 8
第4節　TGS濾紙法による二酸化窒素相対濃度の測定結果 …… 9
1. 月　間　値 …… 9
2. 短時間値 …… 11
第5節　雨水成分等の測定結果 …… 12
第6節　アサガオを指標とした光化学大気汚染による植物被害観察 …… 13
第3章　植　　生 …… 14
第1節　現存植生 …… 14
第2節　植生の動向 …… 19
1. 航空写真による植被率調査 …… 19
2. ベルトトランセクト法による植生動向調査 …… 21
3. ブナ樹勢調査 …… 35
4. 林道法面の緑化調査 …… 38
5. 緑化復元への提言 …… 45
第4章　動　　物 …… 48
第1節　土壌動物（ササラダニ類） …… 48
第2節　河川動物 …… 52
第3節　昆虫類 …… 55
第4節　鳥　　類 …… 59
第5節　ほ乳類 …… 64
1. ニホンカモシカ …… 64
2. ニホンザル …… 65
3. ツキノワグマ …… 66

4. 小ほ乳類 …… 67
第5章 人文 …… 70
第1節 尾添川流域集落の概観 …… 70
1. 集落・概観 …… 70
2. 瀬戸 …… 70
3. 東荒谷 …… 71
4. 尾添 …… 72
5. 中宮 …… 73
第2節 白山林道建設と地元集落への影響 …… 75
第6章 保護管理対策 …… 78
第1節 白山林道の利用状況 …… 78
第2節 自然保護指導員 …… 80
第3節 白山自然保護懇話会 …… 82
第7章 まとめ及び今後の自然環境の保全と利用 …… 85
第1節 白山林道の建設に伴う自然環境の変化とその復元 …… 85
1. 植生 …… 85
2. 川と谷 …… 87
3. 動物 …… 87
4. 大気 …… 88
第2節 利用形態と利用者の指導 …… 88
〔謝辞〕 …… 91
附表1 尾添川流域自然環境保全調査の既発表論文 …… 92
附表2 尾添川流域自然環境関連年表 …… 93
附表3 白山林道建設関連年表 …… 94
附図1 尾添川流域自然環境関連地図（巻末折り込み）
附図2 蛇谷地域植生図（巻末折り込み）
附図3 蛇谷地域植被図（巻末折り込み）

はじめに

尾添川は白山山系北部をほぼ東西方向に流れ、瀬戸野で本流の手取川に合流する。支流として目附谷、雄谷、蛇谷、中ノ川、丸石谷等を有し、手取川水系の主要河川の１つに数えられている。尾添川流域の河岸段丘上には瀬戸、東荒谷、中宮、尾添の各集落が立地し、また、古くから病気療養のため外部の人々にも利用されてきた中ノ川の岩間温泉、蛇谷の中宮温泉がある。この地へ外部から訪れる人々が多くなったのは、自動車道が整備された近年のことであり、それ以前は、わずかの人々が訪れるのみであった。そのため、尾添川流域は比較的良く自然が残された。特に一部に原生林を有する支流域は、白山地域の中でも自然度が高く、昭和37年に目附谷・雄谷の上流域、蛇谷・中ノ川・丸石谷流域が国立公園に指定された。

尾添川の支流蛇谷にそって白山（スーパー）林道の建設が計画されたのは、昭和40年のことである。いわゆる、国の農免道路整備事業の一環として計画されたもので、岐阜県白川村を経て中京へ通じる道の開設を長年の夢としていた地元では、建設前より多くの期待を寄せた。建設着工は昭和42年11月のことで、昭和52年８月から供用開始となる工期10年の大工事であった。総延長33.3㎞（石川県石川郡尾口村字尾添地内～岐阜県大野郡白川村字鳩ケ谷地内）、幅員6.5ｍ（一部4.5ｍ）の山岳道路である。

県では、白山林道周辺の自然環境の今後の保全と利用を計るため、「尾添川流域自然環境保全対策事業」を、林道が一般供用になった昭和52年度より56年度にかけて５年にわたって実施した。主な事業内容は、大気、地質、植生、動物の自然環境の現況と利用の影響調査、白山自然保護懇話会の開催、自然保護指導員の配置であり、白山自然保護センターが中心になって行なった。

報告書の本文は地質・地形、大気、植生、動物、人文、保護管理対策とそれらのまとめと今後の自然環境の保全と利用からなり、参考資料として尾添川流域自然環境関連年表、白山林道建設経過年表等を加えた。自然環境調査の一部の項目は、すでに白山自然保護センター研究報告書に掲載したので、それらについてはその概要を記すにとどめた。なお、報告書中に多くの地名がでてくるが、その位置については、附図１尾添川流域自然環境関連地図と附図２蛇谷地域植生図を参照されたい。